History of Asahi Ward

# 旭区 地域史

大阪市旭区地域史づくりワークショップ

## 太子橋（たいしばし）編

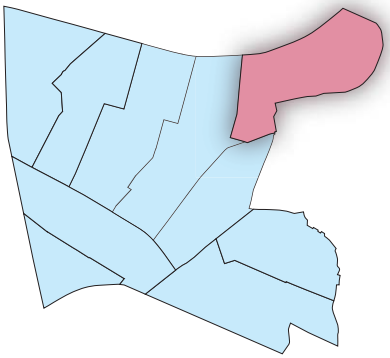
昭和45年3月3日「平太の渡し」廃止の日

区民による地域史づくり・人づくり

平成20年3月

旭区の今昔（いまむかし）を知る会

大阪市旭区役所



# 旭区 地域史

区民による地域史づくり・人づくり　大阪市旭区地域史づくりワークショップ

## 平成19年度実施地域　中宮・太子橋

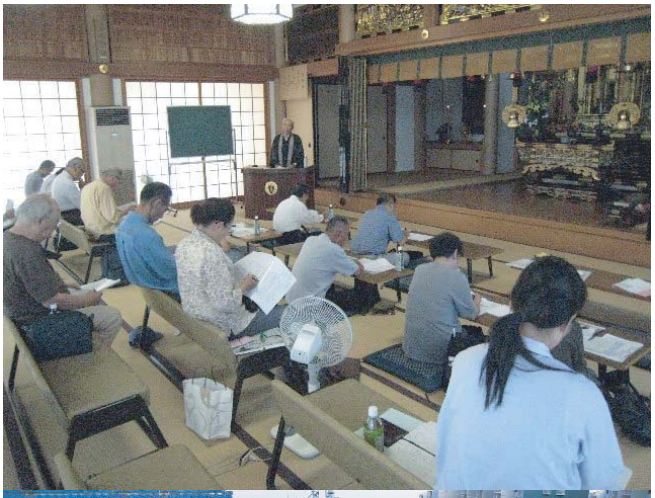
## はじめに～地域史について

■この「旭区地域史」は、地域の歴史を発掘する区民の取り組みとして、平成19年5月28日から平成20年3月13日の約10ヶ月間に計8回ワークショップを開催し、その成果として参加者の手によって作成されたものです。ワークショップは、地域史の作成とともに、「知って得する旭学講座」などで積み重ねてきた経験等を活かした人材の育成、活動を通じて地域コミュニティのさらなる向上を図ることも目的としています。

■ワークショップに参加された方は、これまで地域を研究されていて歴史について大変知識のある方から、旭区にずっと住んでおられるが地域の歴史をあまりご存じでない方までいらっしゃいましたが、「地域史をつくる」という1つの目標に向かって一丸となり取り組みました。

■今後は、旭区民が作成した初の「地域史」として、多くの方々に興味を持っていただき、地域のコミュニケーションを高めるツールや学校の教材など、様々な場面で活用されていくことが期待されます。

■地域史の作成にあたり、各種資料をご提供いただいた関係機関の皆様に、心からお礼を申し上げます。



■第3回（平成19年9月7日）
重誓寺

■第4回（平成19年10月4日）
太子橋フィールドワーク

■第1回（平成19年5月28日）

■第2回（平成19年7月3日）

■第5回（平成19年11月22日）

■第6回（平成20年1月29日）

■第7回（平成20年2月26日）

■第8回（平成20年3月13日）

# 地域史 目次


旭区でそれはいつから始まったのか? …… 3
地域の移り変わり …… 4
太子橋のテーマ …… 5
ワークショップの活動記録 …… 6
『豊里大橋』は昔、"平太の渡し"と ”今市の渡し”やった! …… 7
平太の渡しの想い出 …… 11
「地名でみる太子橋1～3丁目」 …… 13
太子橋中公園 …… 15
大阪旭区太子橋あたり …… 17
太子橋の旧地層を撮る …… 20
太子講 …… 21
地域の方に聞く、昔の様子 …… 22
昭和初期の旭区 …… 23
太子橋フィールドワーク …… 25

## 明治以降の旭区のあゆみ

| | | | |
|---|---|---|---|
| 明治 | 4年 | (1871) | 廃藩置県（大阪府を置く）　旭区域は摂津県東成郡に属す |
| | 6年 | (1873) | 千林小学校創立 |
| | 8年 | (1875) | 淀川修築工事着工　水制（ケレップ）工事が始まる<br>中村小学校（現、城北小学校）創立 |
| | 18年 | (1885) | 淀川左岸決壊し、大洪水が起こる。翌年にかけてコレラが大流行 |
| | 22年 | (1889) | 市制町村制施行（大阪市発足）　旭区域は東成郡のまま<br>清水、古市、城北村がこの頃成立。 |
| | 29年 | (1896) | 淀川大洪水　翌年から淀川改良工事が始まる |
| | 43年 | (1910) | 京阪電車開通（天満橋～五條間）　蒲生・野江・森小路駅開設 |
| | 45年 | (1912) | この頃、千林商店街ができる。 |
| 大正 | 6年 | (1917) | 城北村に初の上水道給水 |
| | 7年 | (1918) | 米騒動が起こる |
| | 11年 | (1922) | 古市・清水小学校創立　関西工学専修学校(現大阪工業大学)創設 |
| | 13年 | (1924) | 古市耕地整理組合設立　城北村で共同浴場開設 |
| | 14年 | (1925) | 大阪市第二次市域拡張　旭区域が市域に編入され東成区に |
| | 15年 | (1926) | 城北土地区画整理組合設立 |
| 昭和 | 2年 | (1927) | 京阪国道(現、国道1号)の舗装工事始まる　京阪電鉄にロマンスカー登場 |
| | 3年 | (1928) | 片町～森小路、東野田6丁目～森小路1丁目間で区内初の市バス運行。 |
| | 4年 | (1929) | 区画整理事業による町名変更が行われる（昭和20年まで）<br>森小路、北船場、大宮で土地区画整理組合設立。 |
| | 5年 | (1930) | 榎並之荘、清水で土地区画整理組合設立。 |
| | 6年 | (1931) | 市電都島～守口間開通　森小路遺跡が発見される |
| | 7年 | (1932) | 旭区が誕生（東成区から分区）　新森中央公園開園 |
| | 8年 | (1933) | 京阪国道(現、国道1号)開通　京阪電鉄蒲生～守口間高架複々線工事完成 |
| | 9年 | (1934) | 城北公園開園　室戸台風襲来 |
| | 12年 | (1937) | 御堂筋竣工 |
| | 15年 | (1940) | 城北運河（現、城北川）完成 |
| | 18年 | (1943) | 南半分が城東区、一部が都島区となり、現在の旭区となる。旭公園開園 |
| | 20年 | (1945) | 大阪市東北部大阪大空襲（6月7日）　終戦（8月15日） |
| | 24年 | (1949) | 旭区役所庁舎再建（火災焼失のため） |
| | 28年 | (1953) | 台風13号による大洪水が起こる |
| | 32年 | (1957) | 今里～守口間でトロリーバス運転開始　ダイエー1号店が千林にオープン |
| | 38年 | (1963) | 太子橋中公園開園 |
| | 39年 | (1964) | 城北公園に菖蒲園開園 |
| | 43年 | (1968) | 阪神高速道路北浜～森小路間開通 |
| | 44年 | (1969) | 市電全廃 |
| | 45年 | (1970) | 豊里大橋完成、平太の渡し廃止　旭区役所新庁舎完成　万国博覧会開催 |
| | 46年 | (1971) | 阪神高速道路守口線開通　旭区全域が下水処理区域になる |
| | 48年 | (1973) | 城北運河魚つり場オープン |
| | 49年 | (1974) | 城北運河歩行者専用道路完成　大阪市分区により26区に |
| | 50年 | (1975) | 旭図書館、区老人福祉センター開設 |
| | 52年 | (1977) | 地下鉄谷町線都島～守口間開通　千林大宮、太子橋今市駅設置。 |
| | 58年 | (1983) | 淀川大堰竣工 |
| 平成 | 元年 | (1989) | 菅原城北大橋開通　大阪市合区により24区に |
| | 2年 | (1990) | 国際花と緑の博覧会開催 |
| | 6年 | (1994) | 旭スポーツセンター開設 |
| | 12年 | (2000) | 旭区民センター・芸術創造館・旭図書館完成 |
| | 14年 | (2002) | 旭屋内プール、城北市民学習センター開設。 |

※「ぶらり探訪　旭の見どころ・知りどころ」より抜粋

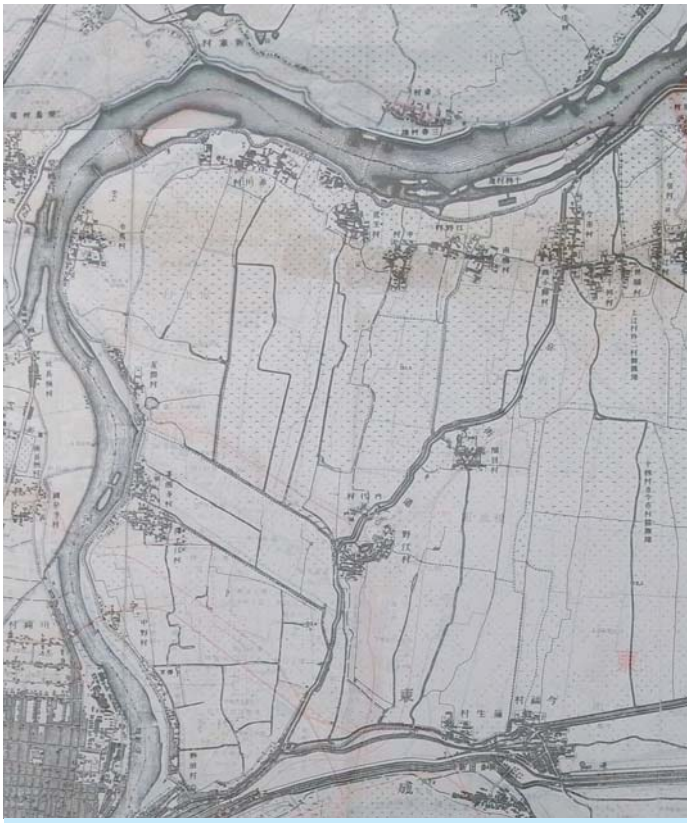
# 旭区でそれはいつから始まったのか？

資料提供：小井戸茂

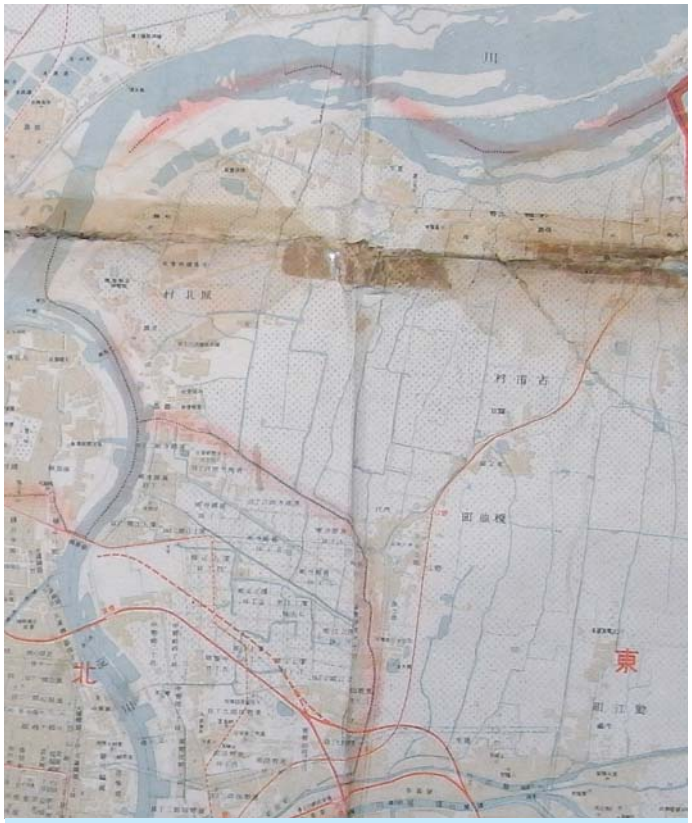
| 項　目 | 年　代 | 摘　　要 |
|---|---|---|
| 電気 | 明治43年 | 京阪電鉄毛馬火力発電所より供給開始 |
| 水道 | 大正11年 | 城北地区一部で送水開始、大正13年に古市・清水地区まで普及 |
| ガス | 昭和3年 | 大阪ガスが旭区へ供給開始、昭和6年に区内全域に供給 |
| 私鉄 | 明治43年 | 京阪電車開通、森小路駅開設。昭和6年に新線(B線のみ)へ移転 |
| 市電 | 昭和4年 | 都島本通～今市間開通、昭和6年に今市～守口間開通 |
| 市バス | 昭和3年 | 森小路1丁目～片町間運行開始、昭和6年に森小路8丁目まで延長 |
| ﾄﾛﾘｰﾊﾞｽ | 昭和32年 | 守口～今里間運行開始、昭和45年に廃止 |
| 地下鉄 | 昭和52年 | 谷町線都島～守口間開通 |
| 公園 | 昭和7年 | 森小路中央公園開園、次いで昭和9年に城北公園開園 |
| 郵便局 | 大正6年 | 特定局森小路郵便局開局（ただし集配は本局鯰江郵便局） |
| 電報 | 昭和8年 | 森小路郵便局で取扱い開始 |
| 電話 | 明治35年 | 今福郵便局電話分室で交換事務開始 |
| 警察署 | 昭和16年 | 旭警察署開署、以前は今福、網島、守口3署の管轄 |
| 消防署 | 昭和23年 | 旭消防署開署、以前は今福消防署の管轄 |
| 区役所 | 大正14年 | 東成区役所出張所を千林に設置、昭和7年に旭区役所新設 |
| 保健所 | 昭和16年 | 森小路保健所開所（大宮2）、昭和38年に新庁舎へ移転 |
| 税務署 | 昭和7年 | 旭税務署開署（野江中3）、昭和41年に新築移転 |
| 総合病院 | 昭和7年 | 区内にはなし。最寄り大阪高等女子医学専門学校付属病院開院 |
| 市民病院 | 昭和28年 | 市立城北市民病院開院、平成5年に市立総合医療センターに併合 |
| 大学 | 昭和24年 | 摂南工業大学発足（半年後に大阪工業大学と改称） |
| 実業高校 | 大正12年 | 京阪商業仮開校、公立では昭和12年に第六職工学校開校 |
| 普通高校 | 昭和28年 | 府立旭高等学校開校（設立当初は府立第48高等学校） |
| 新制中学校 | 昭和22年 | 市立旭第一中学校開校、昭和24年に旭陽中学校と改称 |
| 小学校 | 明治6年 | 組合立千林小学校創立、大正11年に古市・清水両小学校に分離 |
| 養護学校 | 昭和15年 | 市立思斉学校開校、昭和32年に思斉養護学校と改称 |
| 幼稚園 | 昭和13年 | 私立新森幼稚園開園、公立では昭和52年に市立旭東幼稚園開設 |
| 保育所 | 昭和8年 | 市立生江保育所開所 |
| 図書館 | 昭和50年 | 旭図書館開館、平成12年に現在地に移転 |
| 映画館 | 昭和12年 | 江南キネマ開館 |
| 大相撲 | 昭和12年 | 大阪国技館開館（関目は当時旭区）、昭和16年に中止 |
| 水都祭 | 昭和38年 | 旭区淀川河畔で開催、昭和49年まで。以後天神祭奉賛行事に併合 |
| ラジオ | 大正14年 | (社)大阪中央放送局放送開始、昭和6年頃から受信機普及 |
| テレビ | 昭和28年 | NHK本放送開始 |
| 地方銀行 | 大正9年 | 加島銀行森小路出張所開店 |
| 都市銀行 | 昭和8年 | 三和銀行森小路出張所開設、昭和13年に支店に昇格 |
| 近代工場 | 明治30年 | 奥村織布工場開業、旭区の工業の始まり |
| 市場 | 大正9年 | 古市村営公設市場開場（後の森小路公設市場） |
| スーパー | 昭和27年 | ニチイ千林店発足（赤のれんが改組）、後のスーパーへ |
| 百貨店 | 昭和6年 | 高島屋森小路店開店、のち斜め向かいへ移転 |
| 近代的国道 | 昭和8年 | 国道2号（別名京阪国道）開通　※現在は国道1号 |
| 高速道路 | 昭和43年 | 阪神高速森小路線開通 |
| 運河 | 昭和15年 | 城北運河完成（昭和12年に古市橋開通） |
| 渡し船 | 明治37年 | 平田の渡し（豊里村営で）。延宝4年(1676)以降個人経営 |
| 市会議員 | 昭和4年 | 現旭区出身の第1号　寺西圓治郎氏 |
| 水洗便所 | 昭和47年 | 今福下水処理場完成で実現 |
| 町会隣組 | 昭和15年 | 昭和22年に解散、現行の制度は昭和50年に旭区地域振興会発足から |
| 現住居表示 | 昭和46年 | 町は削除、丁目・番・号制に改正…新地名登場(高殿、新森、清水、太子橋) |

# 地域の移り変わり

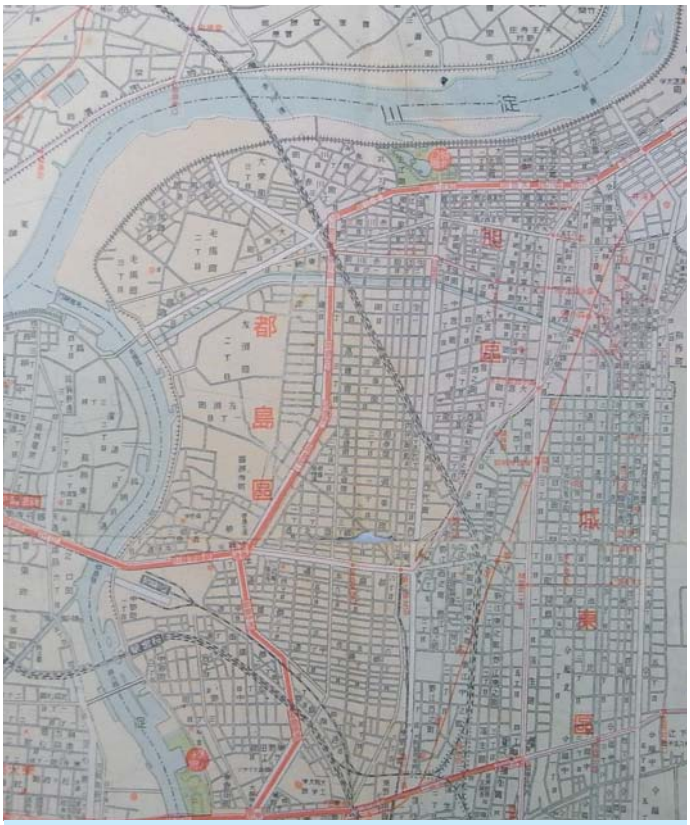
協力：大阪市史編纂所



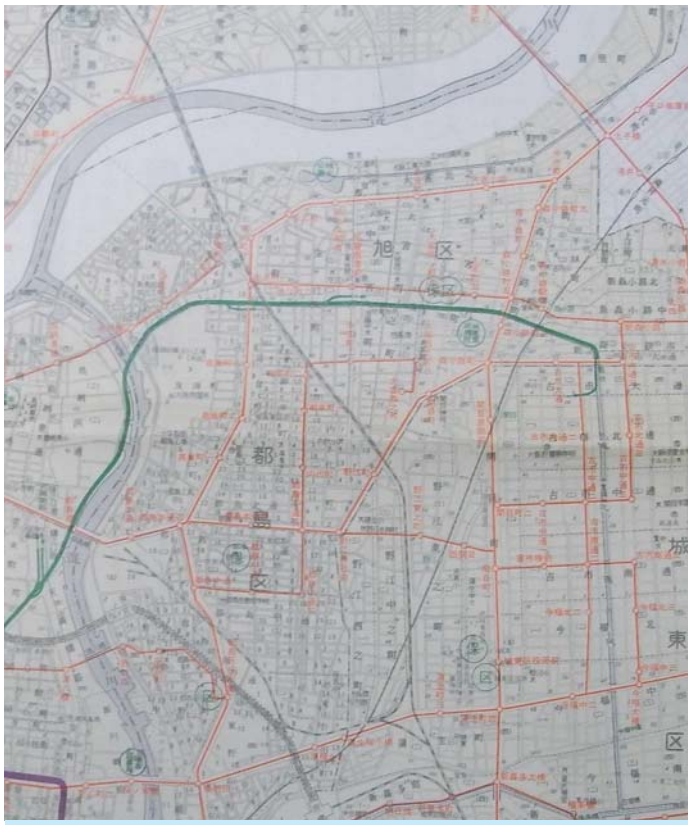
■明治20年（1887年）の旭区周辺　1887




■大正14年（1925年）の旭区周辺　1925




■昭和29年（1954年）の旭区周辺　1954




■昭和45年（1970年）の旭区周辺　1970

# 太子橋

taishibashi

大阪市旭区
太子橋１丁目～３丁目

## 太子橋のテーマ

『豊里大橋』は昔、”平太の渡し”と
”今市の渡し”やった！

平太の渡しの想い出

太子橋中公園

昭和初期の旭区

太　子　講

「地名でみる太子橋１～３丁目」

大阪旭区太子橋あたり

太子橋の旧地層を撮る

地域の方に聞く、昔の様子

太子橋フィールドワーク

この写真は、昭和４５年３月３日「平太の渡し」廃止の日の写真です。豊里大橋の完成により淀川に最後まで残っていた渡し船がなくなりました。
（旭区ホームページより）

平成19年度地域史づくりワークショップメンバー敬称略・50音順

■上田■上田■遠藤■小椋■鎌田■鎌田■草木■小井戸■河本
■小林■島津■田口■竹中■冨増■豊田■中村■福田■矢野

## ～町名の由来～

昭和46年の住居表示実施以前、この地は豊里町・橋寺町と呼ばれており、豊里町はかつて聖徳太子(豊里太子)が寺院を建てるためここで休息されたと伝えられ、また橋寺町は昔、この地に橋本寺という寺があり、その寺名に由来する。

## ワークショップの活動記録

| ワークショップ開催日 | 議論のポイント・内容 |
|---|---|
| 第１回　平成１９年５月２８日 | テーマの種を出し合う<br>中宮及び太子橋について、知っていること、知りたいこと |
| 第２回　平成１９年７月３日 | テーマを決める<br>テーマのアンケート<br>・テーマを限定しない地域史づくり |
| 第３回　平成１９年９月７日 | 重誓寺で前ご住職にお寺や地域の歴史についてお話をお聞きする |
| 第４回　平成１９年１０月４日 | 太子橋フィールドワーク<br>太子橋小学校前～淀川～太子橋中公園～淀川工業高校までのまちあるき |
| 第５回　平成１９年１１月２２日 | 担当してみたいもの<br>発表会の開催に向けた内容の整理 |
| 第６回　平成２０年１月２９日 | 紙面レイアウト<br>このワークショップと成果発表会の名称決定 |
| 第７回　平成２０年２月２６日 | 地域史の記事確認<br>発表会の具体内容を調整 |
| 第８回　平成２０年３月１３日 | 地域史最終レイアウト<br>発表会の最終調整 |
| 成果発表会<br>平成２０年３月２２日 | 旭図書館多目的室において、<br>地域史づくりワークショップ発表会<br>「旭区　いま・むかし」を開催 |

【プログラム】
①地域史（大宮編）より、昔の地名について
②６月７日大空襲の日のこと
③私の小学校時代について
④旭図書館の蔵書紹介（旭区の歴史の調べ方）
⑤昭和３２～３５年頃の大阪の映像
⑥地域史（古市編）より、古市の地名考について

# 『豊里大橋』は昔、"平太の渡し"と"今市の渡し" やった!

**大阪**は、淀川を中心とした多くの河川と堀川により**水都**として成長し、「浪華の八百八橋」といわれたとおり、橋梁技術の変遷とともに**多くの橋**が架けられ、大きく発達した。古墳時代の河内地方は、淀川や大和川の度重なる氾濫により河内湖となり、大和王朝初期は、派生する河川の**治水**や改修と、農耕地の**開拓**により強大化したと考えられている(『日本書紀』)。飛鳥・奈良・平安時代には、僧侶や渡来系豪族も土木事業をしている(『日本後紀』)。中世の橋は地方の有力武士団が橋梁建設に加わり、戦国時代を経て織田信長の実学に触れた豊臣秀吉により近世大阪の町づくりが始まり、江戸期徳川幕府は**町人**の助力を得て河川改修、堀川の開削、**市街地**の拡張、京街道の整備の**木造**架橋など多くの建設事業を行った。

■豊里大橋

## 鉄橋架設～新技術の開発

近世明治の文明開化により木造石造に代わる**鉄橋**架設が始まり、鉄道とともに陸上交通の要である橋には、大正期**コンクリート橋**が出現する。昭和初期には意匠**デザイン**の優れた多くの架橋がなされた。第二次大戦後の復興期、大阪の橋は**補修**・復旧と**高潮対策**に力を注がれた。昭和３０～４０年代の**自動車社会**に対応するため、また大阪万国博覧会開催に向けての**都市計画**により堀川は埋められ、道路建設が進み、橋の長大化が必要となった。新技術の高張力鋼が開発され大阪初の **斜張橋** は、**豊里大橋** であり、淀川に新たな、今も美しい景観をもたらし、市内の**長大橋建設**の始まりとなった。橋梁技術者の夢を可能にし、５０年代以降、設計施工技術と景観面からもわが国の橋梁技術向上に大きく貢献した。そして旭区と東淀川区を３００年間、結び活躍していた「渡し」は役目を終えた！

# 南大道村の土豪、沢田佐平太

「**平太（田）の渡し**」は、江戸期延宝４年（１６７６）頃に開かれた。大坂町奉行から認可を受けて、手広く渡船業をしていた南大道村の土豪、沢田佐平太（ 収益を農民たちの年貢として納めていた。出身は奥州東北の武士で、沢田家文治年間１１８５～１１９０にこの地に移り、慶長年間の大坂の役で家康に味方した功績に対する恩賞として渡船１６ヵ所の特権を得た内の一つである。堂島川、木津川等の渡船権利も得、中島一帯を開墾し、菩提寺大沢寺も建立した ）の名からとも。

また、当時の渡しは西成郡豊里村大字天王寺荘字平田と東生（ ひがしなり ）郡古市村大字今市を結んでいたので、この地名からとも考えられてもいる。

ちなみに、２７代安閑（ あんかん５３１～５３５年 ）天皇の頃、この辺りは放牧の適地として牛が飼われていて（ 乳牛牧跡-ちちうしのまきあと ）、聖徳太子も度々訪れ、この地を四天王寺建立の候補地と考えられたが洪水が多いため、現在地に建てられた故事があり、大正１４年（１９２５）大阪市に編入されるまで西成郡天王寺庄とされたのは、この説からともいわれている。

■豊里大橋と平太の渡し（写真：（財）大阪市都市工学情報センター）

豊里の名も聖徳太子の別称豊聡耳皇子（とよさとのみこ）から名づけられたとの説もある。この地は丹波地方や大和地方への交通の要地で、淀川上下の川船改めの「**平田番所の渡し**」（江戸期元禄１４年（１７０１）発行『摂陽群談』に記述）とも呼ばれ、淀川両岸は渡船で結ばれていた。江戸期文久元年（１８６１）に発行された『淀川両岸一覧』（松川半山画、暁　晴翁著）△上り船之部上巻によると **“今市渡口”**（ いまいちのわたし ）*森小路村の上にあり。東生郡今市村より、西成郡平田村への舟わたし也。* **今市** *渡場の一村なり。毛馬より此処まで、水上凡（ およそ ）十一丁半余。* ***摂河之国境*** 今市村 *、土居村の間にあり。*△下り船之部下巻によると **“平太渡口”**（ へいだのわたし ） *摂州西成郡平太村より、同東生（ひがしなり）郡今市村へ淀川をわたす舟渡しなり。* **今市のわたし** *とも云う。平太より大坂へ、行程凡二里。* •••の記述がある。

明治３０年から淀川大改修工事により流れが変わったが、その以前は旧市電の走っていた国道付近を川幅も今の四分の一ほどで流れていた。しかし、新淀川の開削工事により豊里村が分断され、古市村が陸地へ押し上げられたため、明治３７年以降は豊里村内の飛び地を結ぶ村営渡船場（ 請負制 ）として存続し、明治４０年から府営となる。渡船代金は大人２銭（現代換算で１００円かと ）、子ども１銭、牛馬４銭で１日の利用客は１００人程という記録がある。〈参考：当時アンパン２銭、市電１区４銭〉

■淀川堤防南側（左岸）にある
平太の渡し跡の碑

■淀川堤防北側（右岸）にある平田の渡し跡の碑
（写真右は側面を撮影したもの）

# 南は「平太」、北は「平田」。どちらも『渡し』の碑 ――

淀川筋には古くから多数の渡し場があり、本流では宇治・山崎・橋本・出口・鳥飼他あり、下流の大川筋にも長柄・源八・桜・川崎などがあった。平太(田)の渡しは、大正８年施行の道路法以来［ 東淀川区３８６号 ］という認定道路であったため無料となり、大正１４年市域拡張で大阪市営、昭和２３年４月請け負い制から直営になる。周辺部の市街化で利用者が急増し、片道２０分で手漕ぎ船２０人乗りのため、朝夕多くの積み残しが出たり、強風雨の時には欠航もした。昭和３５年１０月に２１人乗り発動機船、昭和３８年１２月に３６人乗りとなり、最盛期には一日約３千人の乗客と６７０台の自転車を運び人々に喜ばれ、**淀川筋の最後の渡し**として維持されたが、昭和４５年３月**豊里大橋の開通**により姿を消した！昭和４９年淀川１００年事業記念として作られた碑の文字は、公募で選ばれた方の作品。その名を惜しみ袖高欄に記念の銘板が取り付けられている。　＜小椋＞

■豊里大橋の袖高欄に取り付けられた記念の銘板

## 豊里大橋

昭和４５年３月完成。万国博覧会の関連事業。大阪市東部を縦走する都市計画道路新庄大和川線（ 大阪内環状線 ）が淀川を渡る、上流の鳥飼大橋と下流の長柄橋の中間地点。水面から４５メートルの高さにＡ字型の塔を両岸に建て、この塔から斜めにザイルを張り橋を吊り下げた通称”やじろべえ橋” 幅１８メートル、道路部全長９２８．２２メートル、橋長５６１メートルのうち、中央３７６メートルの斜張橋。ケーブルは、新工法で直径５ｍｍの素線を平行に束ねた六角形状直径２８㎝を上段２４６４本、直径２２㎝を下段１５２４本と当時世界初のケーブルの大きさで、全て実験済みであった。大阪市の東玄関口のモニュメントとして外観および景観形成についてシンプルさと明快さで今も夕陽に映える橋として多くのファンを呼ぶ！下流隣に位置する菅原城北大橋とは夫婦橋とも称される。大阪市にある斜張橋６橋のうち２橋が旭区にあります！神戸の摩耶大橋は昭和４１年、瀬戸内海の尾道大橋は４３年に続き、当時大きさ日本一の斜張橋！　＜小椋＞

斜張橋の特徴は…

①ケーブルによる応力調整が可能で、鋼重が軽減できる。
②均等に小さな等高桁も設計できる。
③吊橋に比べ剛性が大きく、耐風、耐震設計に適性。
④美観に優れている。軟弱地盤の多いわが国に施工上有利な形式である。

大阪市にある斜張橋６橋のうち２橋が旭区にあります！

■菅原城北大橋

■フィールドワークで豊里大橋を見学

■参考文献
『旭区史』
『大阪市渡船マップ』
『淀川両岸一覧・宇治川両岸一覧』
柳原書店　昭和５３年発行
『大阪の橋　大阪市における橋梁技術のあゆみ』
（財）大阪市土木技術協会　平成９年発行

# 平太の渡しの想い出

## 「平太の渡し」「淀川」「太子橋小学校」「江野川」の思い出

昭和３１年頃の平太(田)の渡しは無料で、自転車や通勤通学の人が立ったまま乗っていた。子供だけでは乗れず、夏休みに大人の側に隠れて乗る小中学生もいたが ”船頭さん” は怒りながら川岸から離れると ”あきらめて” いた。

私の１０歳当時、近所の男の子達を連れて淀川へ魚釣りに行く余り笑わない、いつも強面の７０歳前後のおじいさんがおられた。時折後ろからついて行く女子の私におじいちゃんは気にもせず、淀川の川岸から大分川中の石ころの積まれた釣り場(　水制　)で、木切れに釣り糸と、釣り針にミミズの釣り餌をつけてわたしてくれる。モロコ、小ブナ、もう忘れたけれど他の小魚もつれる！大き目のフナは、おじいちゃん達が自宅へ持ち帰り、大家族の食卓に並んでいた。私は退屈するとタニシ取りもし、それを近所、小学校の女友達とおひな祭りに母がバラ寿司・蛤の清し汁とともに、わけぎの酢味噌和えにしてくれて食べることの出来たほどきれいな川を思い出す。男の子はザリガニ取りも、又遊泳禁止なのに対岸に抜き手泳ぎで渡る中学生もいた。もちろん禁止となるほど真ん中は渦が巻き、亡くなる人や学生も多く ”土ざ衛門” の言葉も知り、警察や当時消防組合が走り廻ることも。消防団は台風となるといつも淀川の水嵩を見回り、年に一度は堤防が切れるかもと、小学校の鉄筋コンクリの三階に避難指示をしてくださった。ランドセルに教科書を入れ何度か行った。家庭が断水になると、近隣の人はブリキのバケツを太子橋小学校に持参し、校庭の真ん中の大きなイチョウの木の下の水道にも助けられた。

江野川では、緑橋、太子橋、橋寺橋などの木橋で男の子が、特に夏休みにオニヤンマ・ギンヤンマ・シオカラトンボ・赤とんぼをトリモチをつけた長い枝や棒網で捕り遊んでいた。川岸に菜の花や赤い花も白い花も咲いていたが、車の増えだした昭和４０年頃には、ドブ川と呼ばれていたと思う。少し上流に紡績工場があり、毎日水の色が違って流れて来ていたし、車社会や汚水のため、ヘドロも川岸に着き出していた。私の知る内環状線の出来る前は、一号線沿いに建築資材置き場があり、子ども達がその屋根から飛び降りたり、砂や小石を道端に持ち出しては職人さんに追いかけられ、走り廻っていた賑やかな場所！友人は、信号も無く子供が行き来し、荷馬車は無論、当時サーカスの象さえ歩いていたと言う。隣町の製パン工場から、夕方に甘く香ばしいニオイがしてきていた。平太の渡しに向かい真っ直ぐに伸びてきた道路とともに、子ども達のオアシスであった、駄菓子のある ”よろずや” さんの店とおばさんは消えた。そして豊里大橋は、美しい斜張橋が旭区と対岸を結んで淀川に架けられた！今、大阪市の大動脈として特に多くの車が行きかう昼間とともに、夕べには市外からも人々が夕陽の美しさに橋の中央アーチに憩い、カメラで菅原城北大橋をも写す。

＜小椋　昭和２１年生まれ＞

私たちのリーダーであり、広く教えていただき、
旭区の郷土史の生き字引であった
小井戸茂氏を偲びながら記しました。
平成２０年２月ご逝去

■太子橋フィールドワーク（平成19年10月）

## 「平太の渡し」に乗船して－。

３００年続いたと言われるこの渡し船の対岸は、豊かな農村で遙か向うの上新庄あたりまで、農家が点在し畑が広がっていた。田舎に親戚のない私の家では、つてを求めてわずかの衣類などを預かってもらっていた。
平太の渡しへ行くのに江野川にかかる（たしか木の橋だった？ように思う）太子橋を渡り船に乗った。
－食料調達の為の物々交換である（生きていくための智慧、原始にかえった！）。わずかに預けてある衣料の何枚かを引き出して食料にかえるのである。
ちなみに対価は、【若い娘の着物は米３升】、【年寄中年の着物は米１升】と覚えている？
お百姓さんが羨ましくて羨ましくてならなかった。
父母が育ち盛りの子ども達（疎開先からやっと帰ってきた弟妹もいた）の糊口（ここう）をみたすのにどれ程苦労したことか、今の飽食の時代想像だにつかない－。　＜竹中＞

■浚渫船
（写真：中村英祐）

## 昭和２３年頃は－。

私が小学生だった昭和２３年頃は、木造船で手漕ぎであった。自転車と人を乗せて淀川を渡っていました。渡し舟は少し上流にあった浚渫船の辺りまで遡り、そして下流に流され下り対岸に着けていました。対岸の東淀川区は一面菜の花畑で民家はほとんど無かったと記憶しております。
この浚渫船は、非常に長く係留されていました。昭和３５年頃までありました。この頃は二上山も大阪城も良く見え生駒山も今と違い近くに見えました。
＜中村＞

■伊勢湾台風（写真：中村英祐）

# 「地名でみる太子橋1～3丁目」

－太子橋はその名の通り聖徳太子とゆかり深い土地である。

## 太子橋１～３丁目、ここは旭区の北東部。

北は淀川に面し、東は守口市に接する住宅地域。１丁目には府営今市住宅、市営城北住宅、３丁目には府営橋寺住宅、淀川パークハウスがある。１丁目の南端を国道１号線、中央を阪神高速大阪守口線が東西に通る。
１、２丁目の境を主要地方道大阪内環状線が縦貫し、淀川に架かる豊里大橋が旭区と右岸の東淀川区を結ぶ。
さてここに「橋寺」という地名が残されている。「橋寺」はもと淀川の北岸にあったが、淀川の大改修工事により南岸に移り集落の地形は大きく変わった。
地名は、かつて橋本寺という古刹があったことによるという（「大阪府全誌第３巻」より）。その歴史は古い。

橋寺村：江戸期～明治２２年の村名

↓

橋寺：明治２２年（１８８９）～大正１４年（１９２５）の豊里村の大字名

↓

橋寺町：大正１４年～昭和２６年（１９５１）の東淀川区の町名

↓

太子橋１～３丁目：昭和４６年（１９７１）～現在にいたる町名

■橋寺廃寺の碑

府営橋寺住宅の北側の淀川河川敷から出土した瓦や土器などから、橋寺廃寺と呼ばれている。

「橋寺村」をさかのぼれば「橋寺荘」として鎌倉期にみえる。
建保７年（１２１９）３月２６日付の僧宗賢畠地売券に『謹辞　売買永作手畠新立券文事、合壱反者＜但在余畠橋寺御庄内字野垣内地＞』とあるのが初見（日本地名大辞典）。まことに古い地名である。
府営橋寺住宅の北側の淀川河川敷から出土した瓦や土器などから橋寺廃寺と呼ばれている。橋寺廃寺は、奈良時代に行基（６６８～７４９）により建てられている。高瀬橋院もしくは橋本寺の跡ともいわれている。（（財）大阪市文化財協会）

「太子橋はその名の通り聖徳太子とゆかり深い土地です。庄屋の田嶋家では、聖徳太子の命日の２月２２日に太子講という太子をしのぶお祭りが行われ、人々の信仰を集めていました。このお祭りは、聖徳太子がこのあたりを訪れた時にお茶とよもぎ団子をふるまったことからはじまったといいます。
今も田嶋家にはお祭りの時に用いた太子の絵伝や画像が残っています。」（（財）大阪市文化財協会旭区郷土史料室展示解説）＜福田＞

# 橋寺廃寺

■橋寺廃寺跡

●橋寺は、奈良時代の僧侶、行基（ぎょうき）によって建造。この歴史は、「行基年譜」から学者が正確であると判断。

●行基は、道、堤防、ため池、堀、そして近畿地方で４９の寺を造り、この橋寺はそのうちの１つ。

●高瀬橋に近くに高瀬院という寺があり、地元では「橋本寺」と呼ぶようになり、略して橋寺となった。

●寺があったという根拠は、布目のある瓦（奈良南都仏教の特徴）が発見されたことによる。その瓦にはススがあったため、焼け消失したと見られている。

●行基は、当時砂州（島）をつなぐ高麗橋を天平７年（７３０年）に建設。

●昭和３４年に住吉中学校の生徒が偶然土器を発見。その際に発見されたものは、現在大阪市立歴史博物館に保管されている（一般非公開）。

●大阪文化財埋蔵地区に指定されている（旭区に３箇所）。

●土器→南北朝時代／瓦→奈良時代

■橋寺廃寺を説明サイン（大阪市教育委員会）

## 行基（ぎょうき／ぎょうぎ）

●堺出身の奈良時代の僧侶で、奈良の大仏（７５３年完成）などをつくった。

●行基の先生である、道正（どうしょう）は、初めて火葬を行った人で、行基もその次に火葬された。

# 太子橋中公園

## 春はサクラ、夏は木陰の涼しさ、秋はイチョウの黄葉

私は、時々太子橋中公園まで散歩に行きます。その時、地域に住む人々と話しをすることがあり、「ここにイチョウがあるやろ、御堂筋のイチョウと仲間だよ」ということが話題になります。よく聞いてみると、御堂筋の並木用に取り寄せられたイチョウがここにあるとの話。別の話を聞くと、御堂筋のイチョウが枯れた時の補充用の木だとも聞きます。また、平成１９年１１月１２日の日本経済新聞の記事によると、「昭和３８年公園として整備されるまでは苗圃だった。大正１３年に埼玉から取り寄せられ、大阪の土地に馴染むように育てられたが、御堂筋に利用されずに残ったイチョウ」と書かれています。

他にサクラの話も出ました。かなり年月を経た古木とのことで、見れば大きく立派な樹形をしています。このサクラは、「旭わがまちお宝リスト」で“市内でも有数の古さと大きさを誇るサクラが太子橋中公園にあります。雄大な姿は一見の価値があります”と紹介されています。

木の根を痛めないよう周囲を柵で囲うなど、地域の人々の努力により大切に育てられているおかげで、この公園では春にサクラ、夏には木陰の涼しさ、秋にはイチョウの黄葉などを楽しむことができます。　＜鎌田＞

左■太子橋中公園の桜
右■太子橋中公園のイチョウ

### 太子橋フィールドワークから

【企画・案内】小井戸

- 大阪のシンボルロード、「御堂筋」は、大正１５年に工事着手。その際、街路樹の候補として内部ではアジア原産のイチョウ派とヨーロッパ原産のプラタナス派に分かれていた。
- 季節感が得られるということでイチョウが選定されたが、大量の仕入れに苦慮。探していたところ、埼玉県安行村（現：川口市南部）にあり約１０００本のイチョウを買い付けた。
- 御堂筋は工事中であったため、ひとまず太子橋中公園で保管。御堂筋の緑地帯完成とともに、約８００本イチョウが運ばれたが、そのうち１０数本が中公園に残されることとなった。御堂筋は、昭和１２年に地下鉄とともに完成。

小井戸氏のコメントは、平成19年11月12日の日本経済新聞（夕刊）に掲載されている。

# 御堂筋の公孫樹（イチョウ）と兄弟ー。

昔、太子橋中公園は苗圃で、御堂筋の工事が終わるまで公孫樹（イチョウ）をここでしばらく預かり、御堂筋に公孫樹を植えた後、何本かがこの公園に残りました。そのため、太子橋中公園と御堂筋の公孫樹が兄弟だと言われているのでしょう。また、桜のうち一本だけ古いのが南西の隅に囲われていますが、これも苗圃の時からあったものを公園にする時に植え替えたと言われています。苗圃の時には、そのいわれを書いたものを読むことができたそうですが、今は判読不明で１００年という確証はないようです。１００歳くらいの人がおられたら、もう少し詳しいことが人の口から語られるのではないかと思うと、昔話を聞いておかなかったことが悔やまれます。

■御堂筋

■太子橋中公園

今、この公園では、桜祭りなどの娯楽から消火訓練まで年間いくつもの行事が行われ、地域の人々の交流の場として活用されています。地下には有事のための水槽もあり、苗圃に始まってグランド、社宅と用途は変遷しましたが、地域のためになる立派な施設だと思います。春は花、秋は紅葉が見られ、また、スポーツや園芸など多くの人々に親しまれています。

遅まきながら、この地域史作成の勉強会に参加し、自分たちの住んでいる町の今・昔が少しでも分って、一層わが街に愛着と親しみを持つようになりました。

博学の諸先輩に心から感謝申し上げ、これからもよろしくご指導をお願いいたします。　＜豊田＞

# 大阪旭区太子橋あたり

## 大阪市立太子橋小学校が守口市域内にある

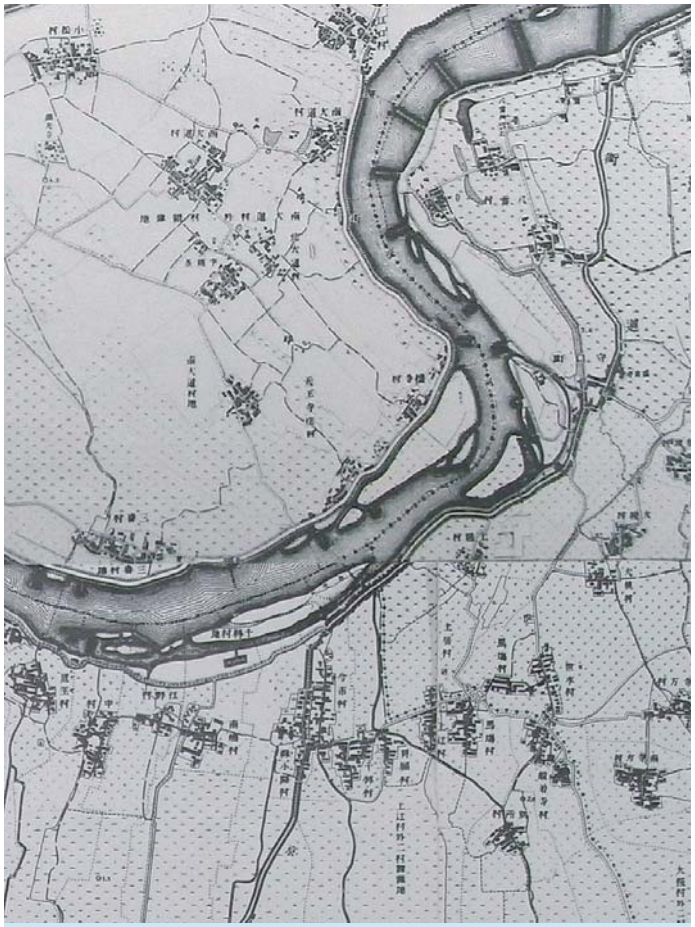
地下鉄、太子橋今市駅の改札を出たところに案内地図がある。付近を正確に示したものだが、その中で気になることがあった。大阪市立太子橋小学校がスッポリと守口市域内にあることだ。また市境が東から西へそして小学校の東北角でほぼ直角に南下している。
旧国名では、守口は河内の国、大阪市は摂津の国だから市境は昔の国境でもある。何故こんな街の真ん中に国境線が通っているのだろうか。また私達太子橋地区の氏神様に、豊里大橋の向こう側の豊里大宮であることも不思議でならなかった。

## 淀川の大改修～細長い太子橋の地形

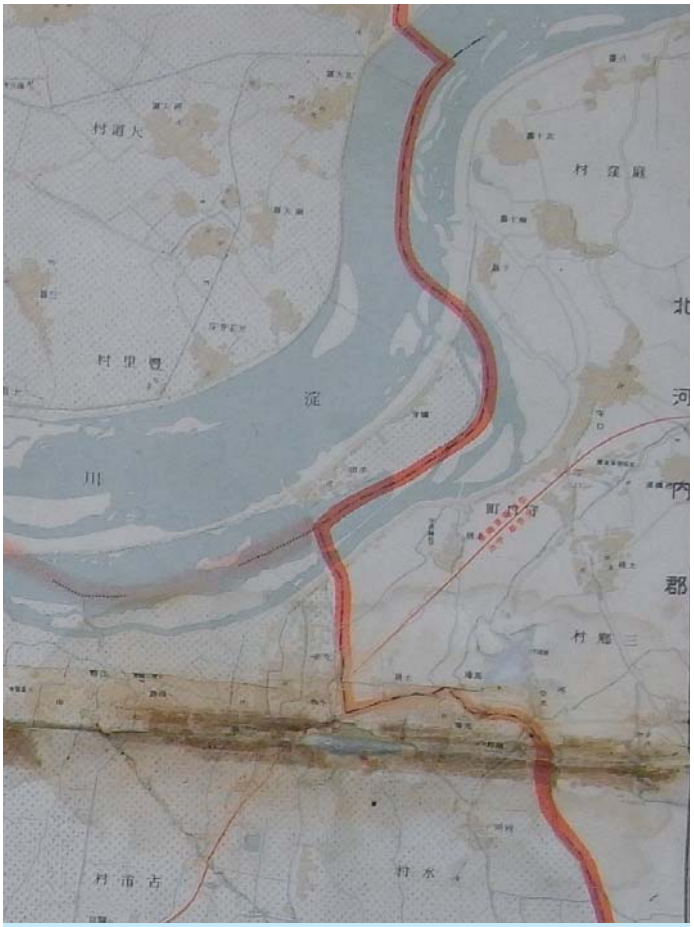
淀川は八幡で桂川、宇治川、木津川の三河川が合流して大阪湾に注ぐ大河川である。この川の恵みで天下の台所といわれた大阪が育てられた。
農業に飲料水に、そして船運にまさに母なる大川である。今でも各地で水飢饉が叫ばれているときでも大阪は節水程度で済まされるのはこの川のおかげだ。しかし川は恵みだけではなく、時には大洪水の災難をもたらす。有史以来の洪水記録では１３０回以上、平均十年に一回は被害を受けていることになる。このため古くは「日本書紀」の仁徳天皇十一年冬の条に「以って茨田堤を築く」とあるように治水は大きな課題であった。明治十八年六月に、折から梅雨の長雨で大洪水が発生した。枚方付近で堤防が決壊し、下流は太古そのままに河内湖の様相を程することになった。
このことが契機となって、淀川の大改修が行われることになった。

大改修前、明治十八年の陸地測量部が作成した地図を見よう（図①）。淀川は守口付近で大きく湾曲している。そして毛馬付近を本流と中津川に分かれて大阪湾に向かっている。明治二十九年から始められた河川工事では、流路の整備と毛馬からの放水路を作ることが行われた。外国人の技師に指導されながらの大工事であった。
このとき守口から赤川付近までの流路付替はこの付近の住民にとって大事件であった。
大正十四年の地図（図②）を見るとそのことがよく判る。この頃は工事完了後間もない時期であるので旧河川が地図上によく残っている。もともと淀川の右岸にあった、豊里村、平田地区が左岸に取り残され、川全体が北へ大きく移動したことが読みとれる。

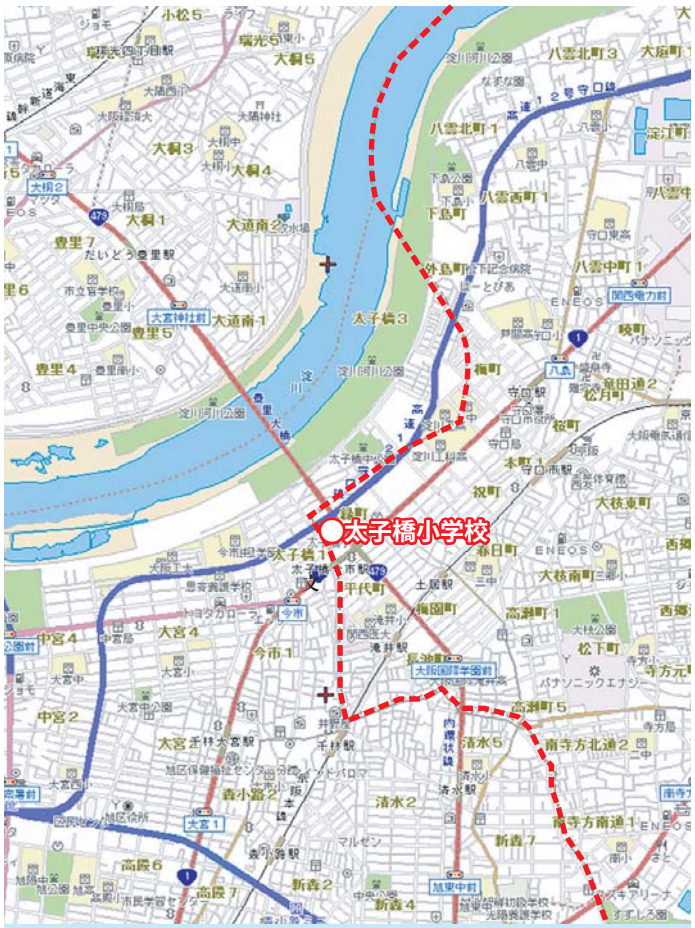
■淀川河川敷に設置された茨田の堤の碑



■図①　明治20年測量　ー改修前の淀川ー
（資料：大阪市史編纂所）



■図②　大正14年測量　ー改修後の淀川ー
（資料：大阪市史編纂所）




■図③　最近の地形図

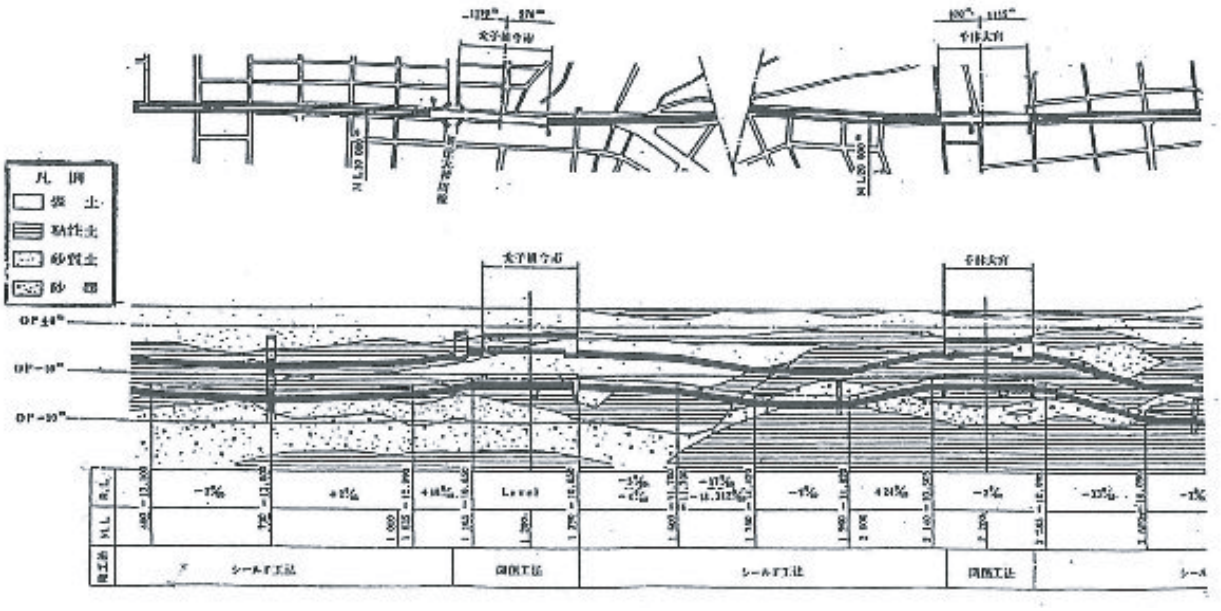
図中「――」が国境標示である。
川は北へ動いたけれど境界はそのまま残されたのである。
最近の地図（図③）を見ると大阪旭区太子橋が細長く守口市域に入り込んでいるのはこのためである。
百年前、小学校の敷地はまさに川の真中にあったことになる。近くの私の家もそのとおりである。
したがって改修後は飛地となった地区の住民は平太の渡しを利用して通行した。
氏神様も豊里大宮へお参りするのが当然のことだった。

葦の間に通っている道を河岸まであるき、そこから渡し船に乗ったものである。平底の大きな船は自転車も乗せることが出来た。多分市の職員であったのだろう船頭さんは河岸に沿って上流へ漕ぎ上りそして流れを横断する。春には野草摘みの人達も対岸を目指したものである。
（※地図の変更に伴い、一部内容を変更）

# 淀川の大改修～細長い太子橋の地形

豊里大橋が出来て、この”渡し”は廃止され、堤防の上に”平太(田)の渡し”の大きな石碑が建てられた。
河川の付替えによって左岸にとり残された地区は橋寺、三番など元々民家のあった部分を除けば廃河川敷であったり、水田や低湿地であった。土地所有者たちの請願によって市電が開通したのは昭和六年十月、このため旧の村道を除いて整然とした区画整理が行われた住宅地となっているわけである。
平太の渡し碑のあるあたりから斜めの小道が豊里大橋の下をくぐり古い屋並を残しながら続いている。犬の散歩には良いルートである。これが古地図の村道であることは間違いない。やがてこの小道も大きなマンション群の中で消えてしまう。
新河川と旧河道の分岐点あたりには”御野立所”(おのたちしょ)の碑、”五箇樋跡碑”が建てられ一寸とした公園になっている。
御野立ちされたのは後の大正天皇で明治四十三年十月四日皇太子として特別工兵の架橋演習を閲覧されたことが記してある。
五箇樋跡の碑は、水利組合管理者の手で昭和六年十月に建立されたとある。淀川の水を村々に供給する施設が偲ばれる。

このような成り立ちを持つ太子橋地区の地底を覗いて見よう。地下鉄工事の際に調査された地質縦断の太子橋今市駅付近のものが（図④）である。表土の下７～８ｍのところに粘土質の地層があり、旧河川敷であったことを表している。子どもの頃は台風が来襲すると堤防一杯の流水に避難命令が出たものである。今では治水工事のお陰で平安な生活が送れることに感謝しなければと思いつつ筆を置くことにしたい。　＜草木＞




■図④　地下鉄土質図（資料:「大阪市地下鉄の建設（最近15年の歩み）1970▶1985から」）

# 太子橋の旧地層を撮る

## 堤防内側の根堀現場に遭遇

■写真①

早朝散歩の途中、堤防工事現場(太子橋１丁目２６番地先)で堤防内側（町宅側）の裾土留石壁の根堀をしている光景に遭遇した。

かねて、想像していたとおり、完全な砂層であった。

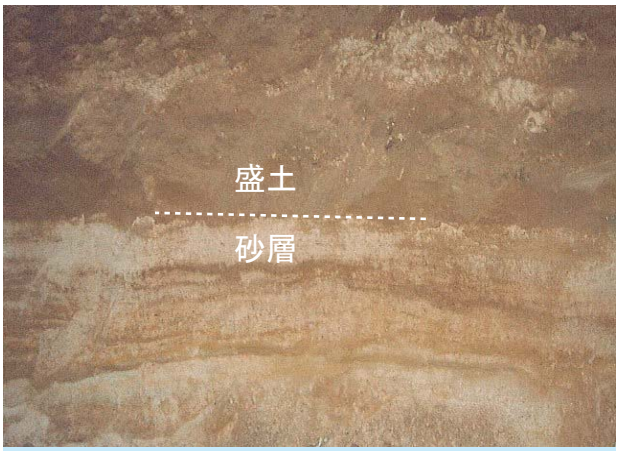
写真①は現場全体、写真②は根堀り場所、土の色は上部は黒く(盛土)、下部は白っぽく、旧地盤砂層である。写真③は新旧地層境界付近の接近写真である。

地下地層の全容は地下鉄谷町線の工事記録として交通局地下鉄誌の太子橋今市駅の地質縦断図がある。これによれば、表土の地下７～８ｍに粘性土があり、その上には砂性土で旧河川敷であったことを表している。

子どもの頃、台風（ジェーン台風など）など来襲すると堤防一杯の流水に退避命令が出て、飼っていた山羊とともに避難したものである。

今では治水工事のお陰で平安な生活が送れることに感謝したい。　＜草木＞

■写真②




■写真③

# 太子講

聖徳太子がお寺を建立するために現在の太子橋辺りにこられ大庄屋田嶋家で休息しました。
その時に、田嶋家が聖徳太子にお茶とヨモギ団子をお出しし、非常にお喜びになり、自画像等をお贈りしました（旭区民センターに展示あり）。これが太子講のはじまりです。

## 木犀（もくせい）の陣屋跡

古市村大字森小路字森（現在の千林二丁目）に見事な木犀の木があり、その香りが関目辺りに漂いました。木犀の木は庄屋（浅田家）の庭にあり、将軍徳川家茂はこの香りをいたく気に入り、浅田家に宿泊しました。以後、諸大名もこの木犀の木を鑑賞しました。
なお、文久三年（１８６３年）四月、家茂は大阪に入り約四ヶ月間関西に滞在した折り、陣屋に寄ったと推測しております。以上のことは太子講の当主田嶋氏よりお教え頂、また、資料も頂きました。
＜中村＞

## 太子橋地区における太子講の行方は?

地域史作成を進めていくうちに、太子講の資料が少ないことに気がついたので、何とか情報を得たいと思い、地域の古いことを良く知っておられる方にお願いしていました。

それは丁度お釈迦様の日、４月８日のことでした。桜の花びらが風に舞っている太子橋中公園の東北あたりの通り道で、犬と散歩中の田嶋さんの息子さんに運良く、偶然お遇いすることができました。お願いしていた方もご一緒だったので、すっかり話し込んでしまいました。
ほんの近くに住んでいたにも拘わらず、私は始めてお目にかかったのですが、幸いに先方は私の母をご存知だったので、周囲の移り変わりや思い出話に花が咲いたのでした。

お話によると田嶋家では、この歴史に残る太子講を終了するにあたり、決して粗末にはできないと、その殆どを大阪市の歴史博物館に寄贈されたそうです。何でも昭和２５年頃には太子講に８０人ほどの人がみえていたのを覚えているとのことでした。一緒に話していた方は、昔一度太子講に参加した記憶があるといっておられました。
＜豊田＞

## 太子講の由来

飛鳥時代、聖徳太子が寺院建立つのため、太子橋のあたりに視察に来られ、近くの大庄屋田嶋家で休息された。その時、お茶によもぎ団子を添えてお出ししたところ、太子は大変お喜びになり、お礼に自身の自画像を賜ったと伝える。
これが太子講の起こりで、以来、毎年旧の２月２２日、田嶋家で太子祭が催され、戦前までは、門前市をなす盛況ぶりだったといい、いまも、田嶋家では太子祭が開かれ、当日、太子の自画像のご開帳と参拝者には故事ゆかりのよもぎ団子が配られている。
（昭和５８年３月３１日発行　旭区史より転載）

地域の方に聞く、昔の様子――

# 旧西成郡（現東淀川区）天王寺庄村平田地区の淀川大改修の後に淀川左岸に移転した方の話
（昭和１７年に旭区に編入された地区の方）

## 70才代後半以上の人々の話

●渡船で対岸の豊里小学校へ通学していた。だから同級生は、対岸の豊里地区にたくさんいる。太子橋地区にはあまりいない。
●雨で淀川が増水して渡船が止まった時、歩いて堤防上を赤川まで行き、赤川の鉄橋を渡って学校へ行った（女性）。
●水が少ない時、裸になり教科書を頭にくくりつけ淀川を泳いで学校へいった（男性）。

## 60才なかばの人の話（全て同一人物）

●昭和３０年ごろの堤防の嵩上げ工事の時、小型の蒸気機関車がトロッコを引っ張って土を運んでいた。
●堤防上、橋寺方面からレールがあり、今市中学校辺りでレールが河川敷に下っていた。
●蒸気機関車の釜の火のついた石炭をよくもらった（炊事用の種火にするため）。
●嵩上げ工事前は、今より２～３m低かった（水防倉庫ぐらい）。
●嵩上げ前、淀川の水が堤防すれすれになった時、おじさんが勤めていた電々公社の倉庫（太子橋小学校の向かえの今アンテナが建っている所、鉄筋建）に避難した。
●大水の時、川の中を牛が流されていくのを見た。
●昭和５５年の時は、今の堤防の高さまで川の水がすれすれになった。
●お父さんが渡船で東淀川区豊里に農作業にいっていた。
●太子橋小学校に通っていた時「古市小学校分校」の看板があった。
●今市中学校に通っていた時、高射砲陣地の後が残っていた。
●淀川の東淀川側に夜、浚渫船が停泊していた。夕方乗組員がボートで太子橋側に来て、そして京阪市場で食事の買い物をして船にもどっていた。船上生活で明かりはランプで、犬も飼っていた。
●枚方よりだんなさんが芸者衆と船で川下りをしていた。船頭さん以外にも漁師さんも乗っていて、投網で魚をとり調理していた。平田の渡しあたりで船頭さんが投げたロープを引っ張り船を岸に寄せるのを手伝った。（褒美はアメ）だんなさんと芸者衆は船から下りて滝井駅へそして京阪電車で枚方へ、船頭さんと漁師さんは船で枚方へ引き返していた。
●堤防の上から、夜、近鉄電車（枚岡～石切）の明かりが見えた。

## 約30年前に60～70才位の人から聞いた話
（上辻霊園の近所の人）

●国道１号の太子橋交差点の北西角の歯科医院（現在マンション）の所に、摂津と河内の国境の道標があった（話を聞いた時にはなかった）。
●上辻霊園の前の道幅は今の半分位で残りは土手になっていた。戦後そこで食物を植えていた。
＜上田（勢）＞

# 昭和初期の旭区

## 古市尋常高等小学校

私は京都紫野に生まれ、昭和５年の夏に千林へ引っ越してきました。両親は迷子の心配をして新しい住所を懸命に教えたようです。引越し早々、近所のおうどん屋さんへお使いに行かされ、「大阪市東成区千林町１２６１、おうどん三つ持ってきてください（※昭和のはじめは旭区ではなく東成区といった）」と一息に言うが早いか、くるりと踵を返すと、すたこら帰ってきた。その後ろからお店の人がついてきて、どこの家かと確かめたということでした。小さい子供の言葉を信じかねたのかもしれません。

昭和８年、古市尋常高等小学校に入学（このとき私の家の隣と向かいは清水小学校に通っていたようです）。今で言う、千林商店街を通って通学。京阪電車の複々線工事が始まっていて、北田の肉屋さんの横に踏み切りがあり、いつも注意せよと言われていたのを思い出します。学校の裏門近くには細い川が流れ、近所のお母さん方が洗濯をしていました。

## 室戸台風

昭和９年９月２１日。忘れもしない室戸台風の日。朝から妙に強い風。それは庭木をぐいぐい倒さんばかり、もとには戻りそうにもない強さ。「今までと違う風だから学校を休ませよ」と言って、父は出勤したそうです。母は、風ぐらいで休んではだめといったので、ランドセルに雨合羽で商店街を必死に学校へ向かいました。目前に看板がパタンと倒れたのを踏みながらやっと学校の前に着いたのはちょうど８時頃だったか、門の前で先生がみんなを追い返す仕草で何か叫びながら必死の形相。子供心にも大変なことが起こっているのだとまた門前でくるり、すたこらさっさともと、来た道を家まで一生懸命に駆け戻りました。後でわかったことは、何でも講堂の屋根だか柱だか空を飛んだということでした。もちろん屋根瓦は、木の葉ように空を舞っていました。家の外でずぶぬれになって心配そうに私の帰りを待っていてくれた母に飛びついて、おもいっきり泣いたのを今でもはっきりと覚えています。幸い我が家は、ガラスの破損くらいですみましたが、級友が切り傷を負っていたのを悲しく思い出します。この台風で守口小学校は倒壊し、死人けが人多数と聞きました。

この台風以降、暴風警報が発令されるようになったとのことでした。

■豊里大橋

この写真は、昭和45年3月3日「平太（田）の渡し」廃止の日の写真です。
豊里大橋の完成により淀川に最後まで残っていた渡し船がなくなりました。
（旭区ホームページより）

## 戦災

昭和１０年。新森小路中二丁目へ引っ越し、ここで２３年まで暮らしました。昭和１３年には、枚方禁野の火薬庫の爆発を遠望。第二次大戦の戦中戦後は、隣組とか食糧の配給制度でなんでも並ぶとか衣料切符など大変な目にあいました。空襲警報が出れば、近くの広場に堀った防空壕へ大切なものを抱えて、一目散に逃げるのは常日頃のことでした。２０年から一年間造幣局へ勤めましたが、空襲警報の時には京阪線の土手に隠れるようにして、森小路から造幣局まで歩いて出勤しました。非常時出勤手当てが出たのを覚えています。昭和２０年６月７日の空襲では、京阪線の野田橋から先は焼け野原とかで、森小路へ帰るのに四条畷の方まで回って帰りました。家の一筋南に焼夷弾が落ちて、寝たきりの人の横を突き抜けたら、その人が飛んで起きたとか。この時我が家は焼失をまぬがれました。戦後の暮らしは大変で、燃料になるやけぼっくいを天満橋のほうまで大八車で取りに行ったり、着物を持って田舎へ食料の調達に行ったり、竹の子生活は長く続きました。

## 終戦　その後

昭和２２年。森小路の家には、大家の息子が復員してくるので空け渡しを迫られていました。丁度その頃は戦後の住宅不足で、急遽簡易住宅があちこちに建設され、橋寺町の府営住宅に入れたのは昭和２３年の春でした。二戸一で三種類の建て方があったように思います。もともと、河川敷のようなところに建てられたのでガタガタでしたが、みんなの結束はかなり強かったようです。開拓村といった感じでした。地番は旭区ですが、少し行くと守口市。行政のさまざまな手続きは、守口市への方が便利な土地柄です。
北東の方向には井路川が流れ、国道に出るには大回りしないと橋もない不便さに、住民一体となって運動して弥生橋をかけてもらい、治安が悪いので、橋寺駐在所も設置されました。このようにして徐々に住みやすい町になっていきました。

守口市に隣接する昔の境界線は川にそって斜めになっており、ここに家を建てると玄関のあるほうの行政地区に所属することになるので『ギザギザの境界線』になったということです。さしずめ、隣は無料パスで町に出られるが我が家にはその便宜はないということです。ゴミの収集日も違うでしょうし、実際その辺はどうなのか気にはなるものの、深く追求したことはありません。淀川工業高校が火災のとき、旭区と守口市の両方から消防車が来たと聞いています。
いつ頃だったか土地が払い下げになり、徐々に個性のある町に変貌してきました。昭和４５年には豊里大橋の開通に伴い平太の渡しが閉業。その当日は、大変な賑わいだったのを覚えています。私もカメラをさげてモノクロで撮影したのですが、フイルムが見あたらず残念です。この渡しには昔よく乗せてもらい、向こう岸で遊びすぎて終了となり、電車で遠回りして帰宅したことも懐かしい思い出となりました。今は両岸に碑が建っています。　＜豊田＞

渡し場のありし碑(いしぶみ)彼岸花　　貴子

# 太子橋フィールドワーク

平成19年10月4日

【ルート及び内容企画】小井戸

## 江野川

●かつては、橋が２０橋が架かっていた。

## 大阪工業大学と阪神高速

●大阪万博時に、そのアクセス路として江野川に高速が計画された。大阪工業大学には騒音に関する先生がおり、授業の妨げになると反対。建設の要望として「４階より上に道路を通すこと」、「遮音壁をつけること」、などを提示。

●住民は、高架下に遊歩道を建設することを要望。統一した街路灯、緑化、ベンチ等を配置した約３．５ｋｍの道路「江野川筋自転車歩行者専用道路」が平成１０年に完成した。

●高速道路は、大阪万博には間に合わなかった。

■江野川筋歩行者専用道路と阪神高速（奥は大阪工業大学）

# 太子橋小学校

●現、小学校校門の北西に位置する電柱は、国と郡の境界であった。
●面積の約９５％以上が守口市緑町に位置する。
●以前の校門は、北西の角にあった（現在校門は緑町）。
●校章は橘で、これは聖徳太子が橘寺で産まれたことに由来。
●昭和２４年、古市小学校の分校として誕生。

■太子橋小学校と校章

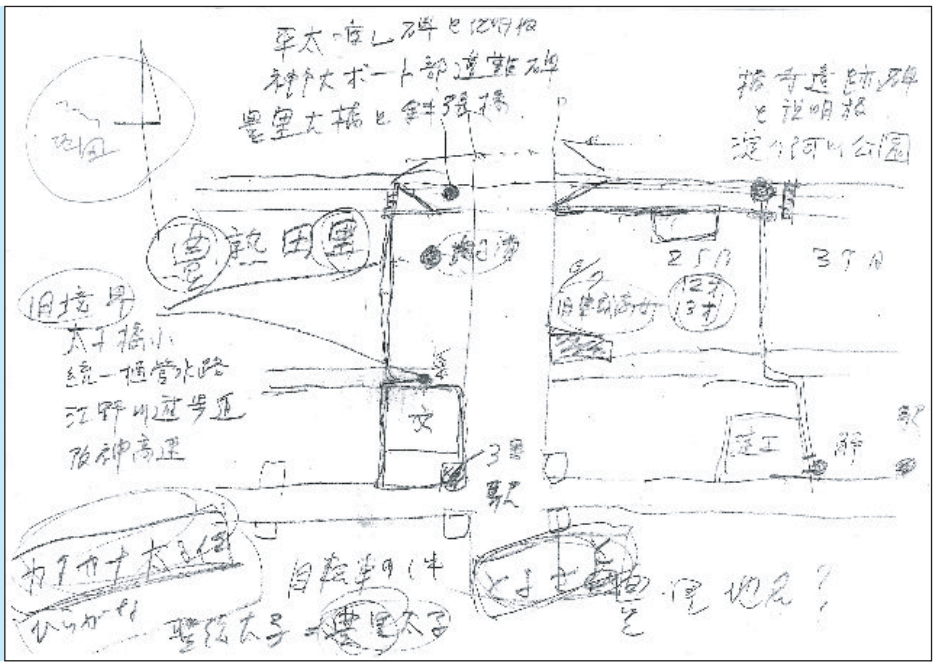
# 太子橋の地名について

●樋管統一水路には、緑橋、太子橋、桜橋、柳橋という橋が架かっていた。
●橋の太子橋は、昭和８年に完成。当時、この架橋によって南北の通行量が増加。それまで今市から守口までの間には停留所はなかったが、通行量の増加により太子橋停留所が設置された。
●地名は小学校の名に由来（昭和４６年に誕生）。その小学校の名は、樋管統一水路に架かっていた「太子橋」から。

## 樋管統一水路（ひかんとういつすいろ）

●延長約１２．３キロ。城北公園付近で江野川に接続し、東は枚方大橋まで通っていた。
●名称の由来は、８つの樋管（堤防の中に作られる水路）を枚方で１つに統一したため。その対象面積は約５００ヘクタール。堤防の安全性を高める機能を持つ。
＜参考＞樋：堤などから排水するための門

■小井戸氏直筆のフィールドワークルート案内図




■フィールドワークでの記念撮影

# 神戸大学ボート部の碑

●平成元年３月７日、赤川から上流に向かっていた２隻のボートが突風にあおられる。豊里大橋でＵターンをしたが、後から来た１隻が、突風により横転。１８名が船から投げ出され、３名が命を落とす。そして、午後３時１５分に船は転覆。

●長い間、遺族は大学と調停を行っていたが、和解。そして、平成７年にボート部ＯＢが募金を集め、

「艇友よ　時は経るとも
　　君の魂は　我が心の中に　生きん」

と刻まれた碑が建てられた。

■見学風景

■神戸大学ボート部の碑

memo メモ

旭区地域史
区民による地域史づくり・人づくり　大阪市旭区地域史づくりワークショップ
【太子橋編】
平成20年3月
■編集／旭区の今昔（いまむかし）を知る会
■発行／大阪市旭区役所区民企画担当
■協力／総合調査設計株式会社

この冊子は、区民の方が中心となって現地確認、聞きとりなどの調査、情報収集をして作成しました。

## 旭区の今昔を知る会からのお願い

## 旭区の地域史づくりにご協力ください。

**旭区の歴史を子どもたちに残すため、みなさんが持っておられる古い写真や資料をお貸しください。**

■江戸時代や明治時代から昭和40年代頃までの、旭区の風景、行事などを写した写真、又は古い資料や道具などなんでも結構です。

■お借りしました写真や資料等は大切に取り扱い、写真データ等におさめた後、返却いたします。

■お借りしました写真や資料等は、地域史作成のための資料や地域史に掲載させていただくほか、旭区役所が実施します各種事業に使用させていただく場合がありますので、ご了承をお願いいたします。
なお、地域史は今後数年かけて作成する予定ですので、お借りしました資料等の掲載にはお時間がかかることがあります。
詳しくは旭区役所区民企画担当（企画振興）までお問い合わせください。

## 「旭区の今昔（いまむかし）を知る会」とは

平成１８年度から公募で集まったメンバーで、区内１０地域の身近な歴史や思い出などをとりまとめて、順次「地域史」を作成しています。本会では、地域史の作成を通じて、これまで積み重ねてきた経験等を活かした人材の育成、コミュニティのさらなる向上を目指すものと考えています。

**平成20年3月**

**本内容に関するお問い合わせは**
**大阪市旭区役所区民企画担当まで**
**tel06 ( 6957 ) 9734**